

**表現の仕方を工夫して、絵の解説文を書こう****～「城南ギャラリー」の絵画コメンテーターになろう～**

中心学習材 「この絵、わたしはこう見る」(光村図書6年)

**〈育てたい主となる能力〉**

- ◎事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。(書ウ)
- ◎書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。(書力)

**〈単元を貫く言語活動〉**

- ◎絵の解説文を書く。

**1 子どもと単元について**

子どもたちは、5年生の「書くこと」の学習の中で、グラフや表を引用しながら意見文を書いたり、効果的な構成や表現を工夫しながら物語を創作したりする活動を行ってきた。また6月には、目的や意図に応じた効果的な構成や表現を工夫しながら町のよさを伝えるためのパンフレットを編集する活動も行った。これらの学習を通して、自分の考えを明確に書くことや目的や意図に応じた構成で書くこと、表現の効果を工夫しながら書くことの力を高めてきている。また、交流や助言の活動を通して、読み手を意識した表現を工夫することや、表現の効果を観点とした助言をすることの能力も高まっている。

中心学習材「この絵、わたしはこう見る」は、絵の様子や解釈、感想を読み手に伝わるように表現を工夫して書くことを通して、分析した絵の様子とその子なりの解釈を解説する力の育成をねらいとしている。こうした分析的な読み取りと個別的な感想の融合に、批評力や鑑賞力の基礎的な力の育成も期待できる。また、相互交流の場では、同じ観点に着目しても感じ方やものの見方は様々であるという点や、全体的にその人らしい意味付けができていく点に着目し合うことで、互いの個性の尊重につながると思う。

指導に当たっては、次の二つを大切にしたい。一つ目は、自分が選んだ名画の魅力のコメンテーターとなって解説し、多くの人に共感してもらおうという目的を念頭に置いた学習を展開することである。名画でありながら容易にその作品世界を読むことが難しいと思われる絵画作品故に、その子なりの個性的な解釈が期待できる。しかしその独自の解釈を理解してもらい共感を得るためには、効果的な表現で伝える必要がある。前単元で学習した「着眼点」「評価語彙」「表現の仕方」を活用しながら、絵全体を略述で説明し特に取り上げたい部分を詳述する方法や、絵の様子と解釈、感想を区別して表現する方法の定着を図りたい。

二つ目は、グループ協議を基軸にした学習を展開させることである。グループ内交流を繰り返すことで、常に自分の表現の効果を確かめながら書き進めることができる。その際は交流の目的を明確にし、前単元で学習した「着眼点」「評価語彙」「表現の仕方」を観点とした助言を貫けるようにする。また、完成した解説文を助言し合うことで、吟味した表現でも読み手によっては受け止め方が違うことや、助言することは自分の表現の参考にもなっていることに気付かせたい。

**2 単元の指導目標**

- 絵に関心をもち、自分なりの解釈と感想を伝えようとしている。【関心・意欲・態度】
- 絵の様子と解釈、感想を区別しながら書くとともに、意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることができる。【書くこと ウ】
- 絵の見方のよさや表現の仕方に着目しながら助言することができる。【書くこと カ】
- 語句と語句との関係を考えながら、文章の中で使うことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(オ)】

**3 単元の評価規準**

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
○絵に関心をもち、自分なりの絵の解釈と感想を解説文に書いて伝えようとしている。	◎絵の様子と解釈、感想を区別しながら書くとともに、絵全体の説明を略述し特に取り上げたい部分を詳述している。 ◎着眼点のよさや絵の魅力を伝えるための表現の仕方の工夫に着目し、具体的に助言している。	○語句と語句との関係を考えながら、逆接の接続語や順接の接続語、仮定法などを、解説文の中で使っている。

4 学習指導計画（全4時間）

【主な段階】

【主な学習活動】

【主な活用】

前単元  
ものの見方を広げよう  
『鳥獣戯画』を読む  
(5時間)

絵と文章を照らし合わせながら『鳥獣戯画』を読む」を読み、筆者の着眼点や表現の仕方をとらえる。  
・絵全体のどの部分を取り上げ、何に着目して解説しているか。  
・どのような言葉で評価しているか。  
・表現の仕方にどんな工夫があるか。  
(書き出し・文末・言い回し 等)

第1次  
単元の学習の見通しをもち、中心学習材から表現の効果についてとらえ解説文の構想を立てる。  
(1時間)

①『城南ギャラリー』の絵画コメンテーターになろう」という単元のゴールを設定し、中心学習材の記述例から表現の効果を考えて「評価語彙集」に追加したり、解説文の構想を立てたりする。

〈評価〉

①学習の見通しをもち、解説文の構想を立てるとともに、作品批評に関する語彙を整理している。

第2次  
表現の仕方を工夫しながら、絵の様子や解釈、感想を解説文にまとめる。  
(2時間)

②自分の見方を伝えるための効果的な表現の工夫をグループで協議し、絵の様子や解釈、感想を文章(400字程度)に書く。

③書き上げた文章を推敲したり、グループ内で助言し合ったりし、解説カードに清書する。

〈評価〉

②絵から情報を読み取り、絵の様子や解釈、感想を区別しながら書いたり、意図に応じて詳述したり略述したりしている。

③誤字脱字、主語述語の関係、絵の様子や解釈、感想の書き分け等を確かめながら推敲している。

『鳥獣戯画』を読む」の学習で学んだ、絵を読む着眼点や評価語彙、表現の仕方(書き出しや文末の工夫等)を活用し、自分が選んだ絵の解説を書く。

第3次  
解説文の交流会を開き、互いに助言し合う。  
(1時間)

④完成した解説文を絵と照らし合わせながら読み、着眼点のよさや表現の工夫に着目して助言しあう。(本時)

〈評価〉

④書き手の着眼点のよさや表現の工夫に着目しながら、観点に沿って助言している。

《発言・ワークシート》

「ようこそ、わたしたちの町へ」の学習で身につけた、観点に沿った助言の仕方を活用し、友達の解説文を読み助言する。

図画工作科

「城南ギャラリー」に6年生を招き、ギャラリートークをする。(1時間)

【他教科等・日常生活場面】

・図画工作科、音楽科などの学習において、自分なりの見方・聞き方で作品を解釈し、その感想を事実と書き分けながら効果的に相手に伝える。

## 5 本時の指導

### (1) ねらい

着眼点のよさや絵の魅力を伝えるための表現の仕方の工夫に着目し、具体的に助言することができる。

### (2) 基礎的・基本的な知識・技能を活用する言語活動

前時までの学習で身に付けた力は、自分の絵の見方が伝わるような効果的な表現の仕方と、観点に沿って助言する力である。本時では、その知識・技能を生かし、書き手の着眼点のよさや絵のよさを効果的に伝えるための表現の工夫について着目し、具体的に助言し合う。

### (3) 展開

学習活動	学習内容	指導の手立てと評価
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <p>絵の魅力を効果的に伝えている解説文か、表現の仕方に着目し具体的に助言し合おう。</p>		<p>○画家別グループの学習計画に沿って学習課題を確認し、本単元における本時の位置付けを確かめる。</p>
<p>2 学習課題を解決する。</p> <p>(1) 交流Ⅰを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・着眼点や最も伝えたいことを伝え合う。</li> <li>・絵と照らし合わせながら解説文を聞き合う。</li> <li>・解説カードを交換し、助言をメモする。</li> <li>・メモを基に助言し合い、助言を添えた解説カードを返す。</li> <li>・助言を受けた感想を、伝え合う。</li> </ul> <p>(2) 交流Ⅱを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Ⅰとは違う画家グループと交流し、助言し合う。</li> </ul> <p>(3) 交流を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観点に沿って活動を振り返り、シートに記述する。</li> <li>・振り返りを発表し合う。</li> </ul>	<p>○助言の観点</p> <p><b>【着眼点のよさ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵の中で取り上げた部分</li> </ul> <p><b>【表現の工夫】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書き手の解釈が伝わるような詳述</li> <li>・評価語彙や書き出し、文末表現の工夫</li> </ul> <p>○感想の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の解釈は伝わっていたか。</li> <li>・表現の工夫は効果的だったか。</li> </ul> <p>○交流の振り返りの観点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観点に沿った助言</li> <li>・表現方法の広がり</li> <li>・新しい発見（絵の見方）</li> </ul>	<p>○新たな視点で読み合えるように、前時までのグループ内交流ではなく、別グループとの交流とする。</p> <p>○観点に沿った助言がし合えるように、着眼点や最も伝えたいことを互いに押さえた上で解説文を聞き合う。</p> <p>○相手への助言を通して、自分のものの見方が深まったり、表現の参考になったりしていることを確認する。</p> <p>○自分の助言が相手にどう受け止められているか確認できるよう、受けた助言に対する感想を伝え合う時間を確保する。</p> <p>○助言に対しての感想を伝えようとすることで、表現の効果を確かめたり、自分の思いを再確認したりできるようにする。</p> <p>○2回の交流が、着眼点のよさや新しい表現方法に気付ける活動となるよう、Ⅰでは近い画風のグループ同士、Ⅱでは違う画風のグループ同士で行う。</p> <p>〈評価〉 着眼点のよさや表現の仕方の工夫に着目しながら、具体的に助言をしている。 <b>【発言・解説カード】</b></p> <p>○再度絵をじっくり見ることで、見方の広がりを実感できるようにする。</p> <p>○児童一人一人の見方の広がり、深まり、こだわりを肯定的に受容する。</p>
<p>3 学習を振り返る。</p> <p>(1) 単元を振り返り、自己評価する。</p> <p>(2) 振り返りを交流し、本単元の学習を価値付ける。</p>	<p>○単元の振り返りの観点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の工夫や助言をする力</li> <li>・自分の解釈を解説する方法</li> </ul> <p>○身に付けた力を生かせる場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲、関心、学習態度</li> </ul>	<p>○本単元を通して身に付けた力を実感できるようにこれまでの活動を想起し、自分の考えや表現が学習前とどう変容したか記述させる。</p> <p>○身に付けた力や学習方法にかかわる評価をしている子を指名し、本単元の学習の価値付けを図るとともに、身に付けた力を活用できる具体的な場面の意識付けを図る。</p>